

追 悼



故 野村岳而 先生 略歴

(昭和10年3月11日—平成23年9月12日)

(写真提供：ご遺族)

<学歴・職歴>

昭和28年3月 石川県立七尾高等学校卒業
昭和28年4月 金沢大学理学部乙類入学
昭和30年4月 金沢大学医学部入学
昭和34年3月 金沢大学医学部卒業
昭和34年4月 臨床実地研修(高岡市民病院)
昭和35年4月 金沢大学医学部第一内科入局
昭和40年8月 米国オハイオ州クックス心臓研究所研究員
昭和43年4月 金沢大学医学部第一内科助手
昭和47年7月 同 講師
昭和52年4月 同 助教授
昭和55年5月 久留米大学医学部第三内科教授
平成8年4月 金沢市民病院院長

平成15年4月 金城大学社会福祉学部教授

平成19年4月 同 医療健康学部教授

<主な役職>

昭和54年11月～平成12年3月 日本腎臓学会学術評議員
平成4年5月 第22回日本腎臓学会西部学術大会会長
平成6年4月～平成12年3月 日本腎臓学会評議員
平成12年4月～平成17年3月 同 功労会員
平成17年4月 同 名誉会員
昭和53年4月～平成14年3月 日本高血圧学会評議員
昭和62年4月～平成8年3月 日本内科学会評議員
平成9年3月 第171回日本内科学会北陸地方会会長

野村岳而先生を偲んで

久留米大学内科学講座腎臓内科部門

奥田誠也

久留米大学名誉教授，日本腎臓学会名誉会員，野村岳而先生は平成 23 年 9 月 12 日に御逝去なさいました。76 歳のご生涯でした。

野村先生は昭和 10 年 3 月 11 日，石川県七尾市に代々医師の家系の 7 代目としてお生まれになり，自然に医師になるべく金沢大学医学部に進まれ，昭和 34 年 3 月に卒業なさいました。高岡市民病院での一年間のインターン後，金沢大学第一内科に入局なさり，武内重五郎教授(後に東京医科歯科大学教授)に師事され，腎臓病学・高血圧の勉強をなさいました。武内教授からは医師として大切なことは「誠実，親切，勉強」であることを教えられ，それを座右の銘にしておられました。昭和 40 年から 3 年間アメリカ合衆国オハイオ州クックス心臓研究所に留学され，帰国後も金沢大学第一内科で病棟医長，医局長，助教授と活躍され，多くの業績を挙げられました。

昭和 55 年 5 月に久留米大学第三内科の腎臓高血圧部門教授として九州の地に赴任されました。当時の久留米大学では，腎臓，高血圧を専門とする科がなく，循環器が主であった第三内科の主任教授，戸嶋裕徳教授が新しく腎臓高血圧班を作られ，野村先生をお招きになりました。診療，研究，教育に関して，大変ご尽力いただき，若い教室員を率いて腎疾患の診療，治療，血液透析，CAPD，血漿交換，腎移植等，多岐にわたり久留米大学を筑後地区の腎高血圧分野の中核へと成長させ，また多くの腎臓学会認定専門医，透析学会専門医を育てあげられました。また高血圧，腎臓関連の研究に従事され，高血圧と腎交感神経の体液調節機構，高血圧の運動療法などの分野で，多くの教室員に学位を取得させておられます。現在，高血圧分野では腎交感神経が再び脚光を浴びていますが，今振り返りますと先駆的なお仕事であったと思います。また平成 4 年には日本腎臓学会西部学術大会会長として，久留米の地にて盛大かつ円滑に学会を主催されました。

久留米大学第三内科に赴任された当初，腎臓病について知識のない教室員のため早朝から Clinical Nephrology を輪読し，野村先生ご自身が解説されました。また小児科，病理と腎生検を中心とした症例の腎カンファランスを始められました。先生は患者一人に一枚のカードを作成され，問題点などを記載し，いつも白衣のポケットに入れ外来をなさる程，患者を大変大切にしておられました。先生は医局員に対しても声を荒げたり，感情をあらわにされることはなく，穏やかでしたが，そばにいらっしやるだけで，背筋がピンとなるような存在感をお持ちでした。久留米を離れられた後も当時の医局員との交流は続けておられて，当時の医局員とともに古希のお祝いを福岡でなさいました。

定年まで 4 年間を残して，平成 8 年 3 月に久留米大学を退職され，金沢市立病院に院長として赴任されました。院長時代は，病院の増築，透析センターの増床，病診連携室の開設など病院機能の強化とともに，病院業績集の創刊や内科学会北陸地方会の会長を務められるなど精力的に病院，地域のためにご尽力されました。また，医学生実習も受け持ちになりましたが，その指導は鋭く，豊富な医学知識に基づいており，大学時代を彷彿とさせるものだったようです。そのご業績により，定年後も市長に請われて定年を 3 年延長してご活躍になりました。

平成 15 年 4 月より金城大学社会福祉学部教授として，再び教鞭をとられるようになり，そのお仕事を

楽しんでおられました。不幸にも平成 20 年 5 月に脳梗塞を発症されました。運動機能には明らかな障害はありませんでしたが、失語症を併発されました。その後、リハビリテーションも積極的になさっておられました。脳梗塞の再発などもあり、治療の甲斐なく生涯を閉じられました。

私は、先生が久留米大学をご退任後しばらくして久留米大学に赴任したため、直接ご指導いただく機会には恵まれませんでした。しかし現在、腎臓内科学講座として独立し、医局として順調に発展しているのも、先生に腎臓内科部門の基礎を築き上げていただいたお蔭と心より感謝しております。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。安らかにお休みください。

平成 23 年 11 月